

日時 令和5年7月20日(木)

午後2時00分～午後4時15分

場所 市民活動サポートセンター北ラウンジ

第 2 回

さいたま市市民活動推進委員会

会 議 録

1 開会

2 議題

(1) 令和5年度マッチングファンド一般助成事業の進捗状況について

(2) 市民活動及び協働の推進について

3 その他

4 閉会

さいたま市市民局市民生活部
市民協働推進課

出席者名簿

委員	渥美	翔 (公募により募集した市民)
(50音順)	阿部	成男 (市民活動団体の代表者)
	大木	洵人 (公募により募集した市民)
	大塚	恵利子 (市民活動団体の代表者)
	篠崎	正彦 (学識経験を有する者)
	鈴木	俊治 (学識経験を有する者)
	田中	心彩 (市民活動団体の代表者)
	谷崎	美智子 (公募により募集した市民)
	濱中	眞人 (大学又は事業者の代表者)
	久間	亜紀 (公募により募集した市民)
	平井	まゆみ (大学又は事業者の代表者)
	平野	直 (市民活動団体の代表者)
	山形	華子 (市民活動団体の代表者)
事務局	浅見	有 (市民協働推進課課長)
	稲村	嘉一 (市民協働推進課課長補佐兼係長)
	高橋	隼 (市民協働推進課主事)
欠席者	岡	志寿子 (公募により募集した市民)
	山中	亜弓 (公募により募集した市民)
	藤枝	陽子 (市民活動団体の代表者)
	堀川	修平 (学識経験を有する者)
	丸屋	美智代 (市職員)
	山口	恵美子 (市民活動団体の代表者)
	山本	和広 (市民活動団体の代表者)

1 開会

- 開会の挨拶
- 欠席の確認
- 資料の確認
- 委員自己紹介
- 議題の確認
- 傍聴の確認

2 議題

- 議題1 令和5年度マッチングファンド一般助成事業の進捗状況について

○篠崎委員長

令和5年度マッチングファンド一般助成事業の進捗状況を事務局から説明をお願いします。

○事務局

《資料1, 2について説明》

- 議題2 市民活動及び協働の推進について

○篠崎委員長

議題2、市民活動及び協働の推進についてですが、本日の委員会は答申に向けた討議の初回ということで、委員の皆さんがお互いを知っていただく自己紹介の機会も兼ねて、日々皆さんが感じていることをもとに、市民活動の現状とあるべき姿の2点について、対話によるワークショップを通して検討し、共有を行います。

では本日の内容について、オリエンテーションを兼ねて、事務局から説明をお願いします。

○事務局

《資料3, 4について説明》

○篠崎委員長

第7期答申をもとにしたものが指針の改訂版となり、それに対する具体的な対応は、第8期、第9期で検討していくということです。そして、今年度の第5回の委員会までで、意見を深めていこうという流れになっております。皆さんからは御質問いかがでしょうか。

では続きまして、具体的にどのようにワークショップをやっていくかについて説明します。今回は、意見を発想していく場のため、全員がなるべくたくさん発言して、多様な意見を取り入れられることを目指します。そのためにワークショップという手法を用いて、協議を進めていきたいと考えております。

では、ワークショップについて、もちろん経験豊富な方もたくさんいらっしゃいますが、初めての委員さんもいらっしゃると思いますので、まずは事務局から今回どのようなワークショップを実施するかの説明をお願いします。説明が終わりましたらワークショップを進めていきたいと考えております。

○事務局

《資料5について説明》

○篠崎委員長

現段階で分からない点がある方はいらっしゃいますか。

今回はワールドカフェという方式で、名前の通り、カフェでお茶を飲みながら気楽に話すということと、ワールドということでは世界中のカフェをいろいろめぐりながらお話をしてくださいというようなコンセプトのやり方でございます。

それぞれのテーブルには、テーブルオーナーということでファシリテーターになって、話を回していくことになると思います。そのテーブルオーナーですが、今回3つテーブルがございます。それぞれのテーブルオーナーは、こちらで指名させていただければと思っております。

まず、渥美委員。市のファシリテーター講座の受講生ということで、ぜひその成果を発揮していただければと思います。あともう一人は鈴木先生。いろいろな活動の中で、こうした体験がありがたいと思っておりますので、お願いできればと思っております。あともう1つのテーブルは、私が担当させていただきたいと思っております。それでよろしいでしょうか。

○各委員

承認。

○鈴木委員

対話のテーマとして2点示されていまして、これは良いのですが、例えば①はどのような世代構成でしょうか。例えば、10代から20代ですと終わってしまっはもったいないので、どうしてそのような年代構成になっているのかを、皆様それぞれの活動内容とあわせて、こういう活動をやっているからこういう年代ですと付け加えていただいたらと思います。

それから2点目も、どのような世代に広げていきたいと思ひますか？という設問になっていますが、単純に希望的観測でどう広げたいというよりは、どのようにしたらそういうふうな世代に展開できるかというお考えなども併せて述べていただけると議論が広がるかと思ひましたので、提案申し上げました。

○篠崎委員長

ありがとうございます。非常に有益な御提案で、私としてはよろしいかと思ひます。答えるときに、①ではなぜそういう世代か。②については、どうしたらそういうふうな世代に展開できるかみたいなことまで含めて御発言いただければと思ひます。

よろしいでしょうか。1ラウンドが20分ぐらいありますので、話を広げていくためには、そういう視点でワークしていただくのが良いかなと思ひております。

○事務局

それでは、各テーブルに移っていただければと思ひます。皆さんの机の上に配置しました席次表にテーブル名を記載しておりますので、それぞれ最初のテーブルに移ってください。

《ワークショップ開始》

《途中5分休憩》

《ワークショップ再開》

《途中5分休憩》

《ワークショップ再開》

○篠崎委員長

まだ話足りないことがたくさんあるかもしれませんが、時間でございます。これから振り返

りを行います。各テーブルで使った模造紙を前に貼り出していただいて、テーブルオーナーは、2分以内で各テーブルの話をもとめてください。その後、質疑の時間を設けたいと思います。

○篠崎委員長

まだ綺麗にまとまっていないのですが、ザクツとしたお話をしたいと思います。

基本的に参加していただいたそれぞれの方のグループ活動、市民活動グループですけれども、人が足りないわけでもない。でも、もうちょっといると嬉しいというのが非常に多くて、その時に常に出てくるのが、グルーピングの①でございますが、時間のある人と一方で時間は無い人だけれど、体力等々あってまだまだ頑張れる人と、このミスマッチが大きい。

若い世代と高齢者世代のミスマッチがあるので、そこをもう少しうまく調整できるような仕組み、或いはその分担をどうするかということが大事なのではないか。いずれのグループもやられているのですが、そこをもうちょっと意識的に、或いはその運営のスタッフのカテゴリーを少し分けていくとか、そんなことももしかしたらあるんじゃないかということがありました。

一方で、単に参加するだけでなく、運営に携わりたいという人は結構多く見られ、それにはその活動そのものの理念とか内容とかにすごく魅力があり、そこに参加する喜びというものがきっとあるんじゃないかということです。

人を惹きつけるような活動で、もしかしたらすごくニッチかもしれないけれども、そういう魅力のあるところがやっぱり生き残るし、人を集めるんじゃないかというお話がありました。

でも、どういう魅力があるか伝えなきゃいけないわけですが、自然に伝わるという話もあったんだけど、どういう手段かという話の中では、手軽な情報を伝え、拡散していく手段。

電子的なメディアとかがやっぱり必要になるのではないかと同時に、一方で手軽なだけに閲覧する人は、信頼性はどうかと思うわけで、そこは例えば市報に載っていますとか、或いはいろんな人が利用しているメディアに出ていますとかと同時に、簡単でもいいから自分たち独自のホームページみたいな、独自のメディアを持っているのも信頼性として大事なのではないかということでした。

あとは、必ずしもすべての活動が持続する、ずっと続く必要は無いのではないかと、魅力が無いところは、潰れてしまっても仕方ないのではないかという話がありました。でも一方で潰れてしまってもは困るような活動もある。例えば町会とか、消防団とかは、地域社会にすごく大切なものだから、それをどう維持していくかという一方でその無くなっては困るような活動ほど、いろんなルールやスクリプトが厳しくあって、人を集めにくい問題もあるというお話でした。

次の発表は、Bチームからお願いいたします。

○鈴木委員

司会をしました鈴木からBテーブルについて発表させていただきます。

最初与えられたお題がどういう世代か、どんなふうに広げたいかということだったのですが、ファーストラウンドのところ、そもそも市民活動とはなんなのかという、根本的な問いが発せられまして、そのことを中心に考えていこうとなりました。

市民活動とはどんな定義なのか。1人でやっているのも市民活動といえるのか。グループじゃなきゃ駄目なのかとか、ボランティアなのか、お金を稼いでもいいのか、そこはどうかというようなことがありました。

話していくうちに、ひとつの軸が見えてきたかと思えます。これはお題にも関係するのですが、ひとつは市民活動をする理由、理念。対外的に役に立つ、例えば、地域の役に立つとか、子育ての役に立つとか、困っている人の役に立つとかという、対外的、外向きの理由があるからやっているということ。

もうひとつは自己の充足感とか、自分のプライドとか、自分の健康とか、自分の信頼性を損なわない、保持するという自己の充足感という内向きの軸があって、この適度なバランスというのが大事だろうということ。

外向きばかりだとやはり義務感でやっていて続かない。いろんな世代にも繋がらない。内向きだけだとある時、自分は何をやっているんだろうみたいな、世の中で孤立してしまうみたいなこともあって、このバランスというのが市民活動としては重要なのではないかということです。

その時に、どちらかウエイトがある、或いはバランスが取れているにしろ、やはりどうやって始めたのかという価値観が大切にされています。このことはやる価値がある、役に立っているんだ、趣味に終わらせたくない、これは文化であるというような理念とか価値感というのは多くの人がお持ちでした。

その価値感を共有することがすごく大事で、そうすればこの年代、数でいう10代とか20代とか関係なく、価値感を共有できるということが、広げていくためのポイントではないかという意見もありました。

これを、他の人に広げていくためには、今までつき合っていなかった異分野の人にも聞いてみるとか、そっちに入って広げるとか、例えば子供さんの参加を促すことによって、保護者や

親が来るというアプローチもあります。

一方で、広げるためにどうやったらいいかわからないというような時の相談窓口を設ける、相談相手がいることも有効です。例えば、本日の会議のような機会があると、広げる時の一助になるというふうなこともあります。

さきほどの班にもありましたが、今はメディアがいろいろあって、若い人を中心にSNSやインスタでパッと写真で伝えるということは大事なので、それができる人に入ってもらうということも大事です。

一方で、そういうのに慣れていない人もおり、ハイテク時代だからこそ対面の価値があるという意見もあって、その両方をうまく使い分けるということによって、いろんな世代の人が入ってこられるようにするというのがあります。

模造紙の外周部にあるコメントは、それぞれの方が書いてくださった活動内容を紹介しています。以上です。

○篠崎委員長

どうもありがとうございました。では、Cグループお願いします。

○渥美委員

Cグループのテーブルオーナーを務めました渥美です。

1つ目のテーマにありました、皆さんが普段市民活動をしている中で活動に参加している世代はどのような世代構成ですか？というところで、いろんな意見を出していただきました。僕自身としては、意外と60代の方のみなんじゃないかなとも思ったりしたのですが、そんなことはなくて、10代の方もいらっしゃったり、或いは子育て世代の方もいらっしゃったり、もちろん60代、70代の方もいらっしゃる、本当に幅広い世代の方が参加しているというような意見がたくさん出されました。

また、市民活動をどのような世代に広げていきたいと思いませんか？というところで、若者世代とか、いろんな意見が出たのですが、そもそも市民活動を広げていくためには、その魅力を感じてもらう必要があるんじゃないかというような意見が出ました。

魅力を感じてもらおうといっても、どういった魅力があるかというところで、うちのグループでは、魅力という枠組みを作りました。その魅力としては、例えば今、若者世代というのであれば、大学受験とかで総合型選抜というのがあるのですが、学力試験のみならず、人間性を見

るとか、高校生の時に何をやってきたかとか、そういったところを見る試験がありまして、ボランティアというか活動の公的証明として、何かこういった活動証明書とかもあるよねとか、或いは親と子供で一緒に参加できるようなボランティアも、また魅力の一つなんじゃないかなとか、非常に多くの意見が出ました。

あとは、そもそも魅力を感じてもらうために団体が行っていることとして、それが持続性のあるものなのかとか、あとは社会的に周知がされているものであるのかとか、いろんな魅力として書かれている形になります。

その一方で、こういった魅力があるけれども、課題もあるということで、そもそも土日に開催しているものなのか、平日に開催しているものなのか、そういったところでまた若者とか60代の方とかが参加する比率が結構分かれてしまうというお話も出たりしたところです。

そうしたところを含めて、どうしていくべきなのか、どういったことをしていいたら、解決とか、導き出すことができるのかということも、Cグループでは少し話をしました。

まず市民活動の数が多く、これが大切なんじゃないかという意見が出ました。というのも、いろんな市民活動があると思うのですが、その選択肢がそもそもないと、まず選ぶことができなくて、自分が好きなもの、興味あるものに出会えないという意見もありました。

あと活動の周知ということで口コミとか、或いはお誘いとかで参加している人もいる一方、そういったきっかけがなければ、市民活動に参加できないという人もいらっしゃるので、SNSでの発信とか、できるだけ多くの人に平等に情報発信していく手法も必要なんじゃないかという意見もあったり、あとは参加のしやすさという意見も出てきました。

参加のしやすさというのは、私自身もそうなのですが、今、大学生で学業をしている中で、市民活動がものすごく負担になってしまうと参加しにくくなってしまいますので、そういった面で気軽に市民活動に参加できるということも必要なんじゃないかなというところで、解決策等も出されました。以上です。

○篠崎委員長

各テーブルの発表ありがとうございました。すごくいろいろな意見が出たなという感想を持ちましたけども、とても私にはまとめきれないので、鈴木先生にちょっと無茶振りですが、全体を通したコメントをいただくとありがたいのですが、いかがでしょうか。

○鈴木委員

これほどのボリュームなので、なかなかまとまらないと思うのですが、今日参加させていただいた感想をいくつか申し上げます。

やはりここにいらっしゃる皆さんは、非常に問題意識をお持ちです。自分の時間、場合によってはお金を投入して、使命感を持ってやっていらっしゃる。ですのでさいたま市さんの取り組みとしては、今後ともこういう団体さん或いは個人の方の意見を汲み取っていただいて、その支援を続けていただきたいというのが1点です。

それから、この委員会の役割として、ここに来ていらっしゃるような方に、どうやって興味を持ってもらって、広げるかということがあると思います。今日このBテーブルの中で出たのは、相談窓口があるかどうかわからないということがあり、またそもそもこんなことを相談していいのかななどの意見がありました。ですので、さいたま市さんのホームページとか広報、このフロアのパンフレットとかで、こういうことをやっています、皆さんお気軽に相談してくださいとか、わからなくても良いのでとりあえず来てください、といったハードルが低い入口を設けるとするのは、有効と思いました。

あとは各年代でインスタとか、Twitterとかを日常的に利用している世代もあれば、そういうのが得意ではない世代もあるので、面倒かもしれないけれども幅広いメディアを活用いただいて、とにかくオープンです、やっていますということを粘り強く更新して、アップデートいただくことが基礎的なこととして、とても重要なかと思いました。

あとは根本的なこととして、市民活動というのはさいたま市さんとしては、1人でも良いのでしょうか。市民活動というのは、グループでないと駄目なのでしょうか。

○事務局

さいたま市の市民活動の定義では、「市民が」と定めているため、1人でも大丈夫です。

○鈴木委員

他にも、ボランティアでないと駄目なのか。プロの定義もありますが、例えばナショナルチェーンでいろんな物を売っている会社は多分、市民活動には入らないけれども、皆さんのようなサークルで、何かプロダクトを作って、それを提供する時に対価をいただくのは決して悪くないし、サービスを提供する対価をいただいて当然だと思います。

その辺のところ、我々もどっちなのかと思うところがあります。市民活動を広げると言った時に、具体的にどの辺にターゲット、焦点を当ててやろうとしているのかという市のスタン

スが問われます。市民向けにどういう情報発信するのか、どういうことだったら市民活動ですよといった情報提供が必要です。

それに対して、市や仲間たちはどういうサポートをしていますということをより具体的にお知らせいただくと、こんなことでも市民活動と言って良いんだと広がってくると思います。

でもやはり一般市民にとってはまだまだハードルが高いという感じがあると思います。皆さんおっしゃっているように、個人の知性は限界があるとか、どうやって広報するとか、人が足りないという場面もあると思いますし、お金が足りない、スペースが無いということもあります。そこを汲み取っていただいて、市民だけではできない、行政と一緒にやるからこういうことができるというのを、いろんな例とかを交えて、わかりやすく広報いただくことが大事かと思えます。

あとは今日いろいろな御意見が出て、これをどうやって次の会議に使えるかというときに、これを全部引き継いで次回となると、議論がさらに拡散してしまいます。こういうのが出たけれども、特にこの辺が大事で、この1年半後の答申にこういうところを乗せようといった筋道をもう少し明確にさせていただくと、この会議で何を議論したらいいかが明らかになってくるかと思えます。

○篠崎委員長

鈴木先生ありがとうございました。すごく幅広い範囲をまとめていただきました。

私からも一言だけ。まとめて筋道を出さなきゃいけないというのは、まさにこの委員会の役割でありますけども、今日、3つのテーブルの中で3セット回ったというのは、なかなか良かったと思います。

要するにみんな同じ人が同じテーマでやっているんだけど、相手がちょっと変わりつつ、同じことを3回やると、ちょっとずつ違う意見が出てきて、まとめ方もテーブルごとに少しずつ違ってきて、もちろん共通点もたくさんあるんですけども、それは今回ワールドカフェ方式で3セットやったということの成果かなと思っています。

委員会としてやっぱり方向性をつけて、ある程度綺麗にまとめなきゃいけないのですが、一方で出てきたいろんな細かい意見も背景としてちりばめて、議論の下地となってくると良いかなと思っています。

あと、今日の話とまた違って、皆さん結構いろんな活動をされているんですけど、その活動の内容というのが、他の活動にあんまり伝える必要もないのですが、伝わるとちょっと便利な

こともたくさんあったりするし、市の方もサポートしているんだけど、なんか少しおせっかい的に市とか、活動している団体が困っている団体に押し売りの的ななんかやりに行くみたいなことがあったりするとも良いかなと思います。

年に1回ぐらい市民活動フェスタみたいな、私たちの団体すごいんだと、真似してよみたいな会をしたり、或いはなにかいろんなイベント時に相談窓口を出して、そこに経験しているグループの人なんか来て、コメントしたりとかもあったりするのかなとちょっと思いました。

悩ましいのですが、これを事務局と私で1回まとめさせていただいて、また皆さんに目を通していただいて、次回以降の議論のたたき台にしていきたいというふうに考えております。

大分時間を超過していますが、皆さんから何か御意見とか御質問はいかがでしょうか。ぜひ、また次回も皆さん活発な議論をよろしくお願いいたします。

事務局から何か御連絡等あればお願いいたします。

3 その他

○事務局

《事務連絡》

○篠崎委員長

今回は今までと曜日が違うので、今まで来られなかった方が来ていただけると良いなと思っております。

それでは大分時間を超過して申し訳ありません。本日の委員会、以上でございます。皆様どうもありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。

4 閉会